



NPO×議員 インターンシップ

NPO法人ドットジェイピー、NPO法人アスバシと連携し、大学生、高校生のインターン生を受け入れています。次世代のシティズンシップ教育、キャリア教育を現場でサポート。

寄附で社会に還元

公職選挙法により、議員は市内の団体、個人への寄附ができません。市民の税金からいただいた報酬の一部を、公益のために寄附させていただきます。(主な寄附先:ユニセフ経由ウクライナ・アフリカ支援、引退競走馬支援ほか)



鷹羽登久子(たかば・とくこ) PROFILE

大府市大東町在住 1966年生まれ
刈谷北高校、愛知淑徳短期大学卒業
結婚を機に大府市民に。長男嫁として「文正堂書店」の家業従事
学校法人河合塾、株式会社アペックスなど民間企業の経理、経営部門を経験
2007年 後継指名も党も組織もないフリーの大府市議会議員として初当選
全員成人して子育てはひと段落。
保護猫を家族に迎えて、ネコとの暮らしを楽しんでいます。



郵送希望
メッセージBOX
レポート郵送希望、ご意見などは
こちらから

日々の活動を各種SNSで発信中!

大府市議会議員

無所属・無党派



たかば
とくこ



大府と市議の「いま」をレポートする
活動・議会REPORT

政治家とは無縁の家に生まれ育ち、育児に悩み家事育児仕事の両立に格闘し、家計のやりくりで頭を痛め、日々の暮らしで精いっぱい、地域のお手伝いは当番が回ってきた時だけ。

そんなあたり前の市民が、「現場を見ないで政治批判をしても始まらない」と一念発起。後継指名も党や組織の後ろ盾もなく議員になり奔走する。

新たなロールモデルとして走り続ける。

孤立無援で議会に入った私を支えてくれたのは、「がんばって」と繰り返し議会に送り出してくれたみなさんです。

4期目は、無所属クラブとして初めて2名体制となり、会派レポートを年に4回お届けしてきました。

とくこの4期目これまでの活動をお届けします。



未来・世代に橋をかける。

視線はいつも一歩前へ。あゆみを止めない。

コロナ前から変わらず全力を尽くします 議会での活動

2名で政策チームを結成 提言の幅と機会が倍増

政党や組織とは一線を画し、一市民としての視点、地域の視点、行政の健全な監視役としての視点に軸足を置き、議会での発言と提言をしっかりと行っていくことで一致した、**宮下議員と2名で、議会内会派を結成**しました。

4期目の経験があるからこそ、一人会派でもできること、複数だからこそもっとできることが見えてきます。複数の目で見ると幅が広がり、大府のために常に持ち寄り話し合うことを経て、手分けして練り上げ、2人分の発言の機会を最大限に生かした活動を展開しています。

コロナ禍では、18項目にわたる緊急要望書を提出しました。



無所属クラブとして年4回活動報告を発行



パネルを作って一般質問をわかりやすく



ベテランとして 大府市議会をリードする

4期目の経験ある議員として、議会運営委員会副委員長、厚生文教常任委員長、議会運営委員会副委員長、広報委員会副委員長を4年の間に歴任。

多数派に所属していればもっと早く経験しているものですが、ベテランになってから着任したことで、議員同士の議論のとりまとめ、前例ないことにトライするための手順、大府市議会を前に進めるために今しないといけないこと、に取り組むことができました。

- ・議会のタブレット導入
 - ・委員会勉強会のオンライン試行
 - ・危機管理の議会BCP策定
- これらの**大府市議会初**を、議員一同の理解のもと進めました。



1期目から変わらず、真摯に 欠かさず発言、提言

個人で行う一般質問は、コロナ禍で見合わせた1回を除き欠かさず、市の進捗や考え方を質し、提言を続けました。

主なもの=職員任用/熱中症対策/多胎児支援/男性育休/ヘルスツーリズム/リニアインパクト/人口推計/コロナダメージ/LGBT/動物共生社会/市民活動/火災/防災/聴覚障がい/DX など

本会議では、会派として、2名体制で練り上げた市全体を見通した総括的な質疑と討論を続けています。

委員会では、的確な質疑と、見解を伝える討論、調査研究でも4期積み上げた専門家に負けない政策力を生かしています。

調査に基づき資料を用意して、本会議で発言



地域で学び いち市民として一緒に地域まちづくりに参加。 オンラインで専門性を磨く

コロナで変わった議会の外での活動

オンライン活用で広がった 政策研究や研修運営

コロナで大変なことになっている！様々な地域課題を持ち寄り、解決の知恵を共有してきた全国の地方議員仲間と、オンラインで勉強会を重ねました。オンラインでどこからでもつながることができる利点から、コロナ前より、地方議員仲間が増え、より多く専門的な研究を進めることができるようになりました。

東京のメンバーが中心だった、日本最大の政策コンテスト「マニフェスト大賞」では、広報担当となり、今年度は副実行委員長を拝命しました。「議員の多様化」をテーマとした**研修会を企画、ファシリテーターとして、オンラインの進行役も**こなしています。



日本最大の政策コンテスト「マニフェスト大賞」オンライン研修会で進行役



連続講座も受けられる 学びの時間が大きく増加

地域で学べるものがあったても、市内の来賓行事やイベント、各地の議員と連携しての政策研究や、市外県外の現地視察調査などで都合がつかない、と無念に逃してきたあれこれに取り組みました。

視覚障がい支援を学ぶこころのガイド講座、女性相談員講座などのほか、手話通訳者養成講座入門編は8割以上出席でき修了し**手話検定5級、救命講習を修了し防災士など、資格取得**につなげました。

コロナで生活に苦しむ人たちすぐそこにいるはずなのにステイホームで待機するだけ、じっとしていただけでした。ウィズコロナで戻り始めたこれからも、できる限り学び続けます。



日常が一変したことで 実感した日常の大切さ

4期の間に、リーマンショックも東日本大震災も経験。それでも、日常が一変することがある、と気づかされたのはコロナでした。

忙しいから、また次回会えるから、と、手を抜くこともあった日常の人とのつながり。登下校の子どもたちのにぎやかな声が消え、仲良しの地域の方と行事で会うこともなくなるなんて。

子どもたちの見守り活動や、地域パトロール、駅前花壇の花植えウォーキングなど屋外の活動や、少人数での活動、おひとりさまで地元の店を利用など、**身の回りでできることからひとつひとつ、丁寧にやっ**ていこうと心機一転し取り組んでいます。